

府立学校の児童・生徒等、保護者及び学校関係者の皆さんへ

新型コロナウイルス対策にご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、3月23日（月）からの学校での「教育活動等（部活動を含む）の再開」を楽しみにしておられた方も多いと思いますが、本日午前11時から、大阪府庁において「第9回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議」が開催され、春季休業期間中等の学校における「教育活動等（部活動を含む）」の取扱いについての方針が再度決定されました。

残念ながら、「3月23日（月）から4月7日（火）までの学校における教育活動等は行わないこととする」というものです。つまり、春休み中等の部活動については、一旦「実施してもよい」という判断を行ったのですが、本日の会議でそれが撤回され、「実施しないこと」となったということです。

部活動などの再開を楽しみにしておられた児童・生徒等、保護者、学校関係者の皆さんには大変申し訳なく思っています。こうした判断に至った理由を申し上げますので、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

まず、昨日開催された政府の専門家会議では、「感染拡大している地域では一律自粛の必要性を検討」とあり、大阪は感染が拡大している地域と認識しています。

また、昨日の段階で、大阪府の専門家の方からは、「府内には感染源不明の感染者が増加している」「海外（主にヨーロッパ）における爆発的感染拡大により、海外からの帰国者が多く、関西国際空港を擁し、大都市部である大阪の感染拡大リスクが高まってきている」ことから、「現時点でのイベントや教育活動等の再開を延期することは妥当である」とのご意見をいただいています。

加えて、「厚生労働省新型コロナウイルス クラスター対策班」の専門家の方からは、厚生労働省を通じて、大阪府に対し、適切な対策を講じなければ最悪のケースとして、3月20日から27日の間に586人の患者（うち重篤者39人）、3月28日から4月3日の間に3,374人もの患者（うち重篤者227人）が発生することになる（大阪府、兵庫県の合計）という注意喚起がなされました（別紙1）。

感染の状況に応じた取組みを適切に実施することがとても重要であり、現時点は、感染が拡大するかどうかの瀬戸際ともいえます（別紙2）。こうしたことから、本日の会議では、「府が主催するイベントや休館している施設は引き続き自粛する」とこととあわせ、「一旦活動再開を認めた『教育活動等（部活動を含む）』についても実施しない」という決定が行われました。なお、4月8日（水）以降の学校再開の可否については、文部科学省の基準に照らしながら、4月3日（金）までには決定をするということも確認されました。

以上、大変申し訳ありませんが、重ねてご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年3月20日（金）

大阪府教育長 酒井 隆行

大阪府・兵庫県における緊急対策の提案(案)

現状分析

- 全国的に2月14日頃より感染者の増加が加速している。
- 大阪府、兵庫県の全域において
 - － 感染源不明(リンクなし)症例が感染世代(5日程度)毎に増加。
 - － 1人が生み出す2次感染者数の平均値が兵庫県で1を超えている。
➡ 見えないクラスター連鎖が増加しつつあり、感染の急激な増加が既に始まっていると考えられる。
 - － 試算では、19日までの間に患者 78人(うち重篤者 5人)
次の7日間(20~27日)に患者 586人(うち重篤者 30+9人)
次の7日間(28~3日)に患者 3,374人(うち重篤者 227人)
➡ 感染者報告数がこれから急速に増加し、来週には重症者への医療提供が難しくなる可能性あり。

必要な対策の方向性(案)

- 社会的隔離により見えないクラスター連鎖を分断し、感染者の爆発的増大の回避・抑制をはかる

段階1 警戒段階

大阪府・兵庫県全域で、今後3週間の

- － 市民の感染対策の強化の呼びかけ
(有症状者の自宅療養、3要素を避ける、手指衛生の徹底等)
- － 学校休校・イベント中止の呼びかけの継続
- － 大規模イベントの自粛の呼びかけ継続
- － 感染拡大リスクの高い(3要素を満たす)施設の使用自粛、集会の自粛の呼びかける
- － **大阪府・兵庫県内外の不要不急な往来の自粛を呼びかける。**

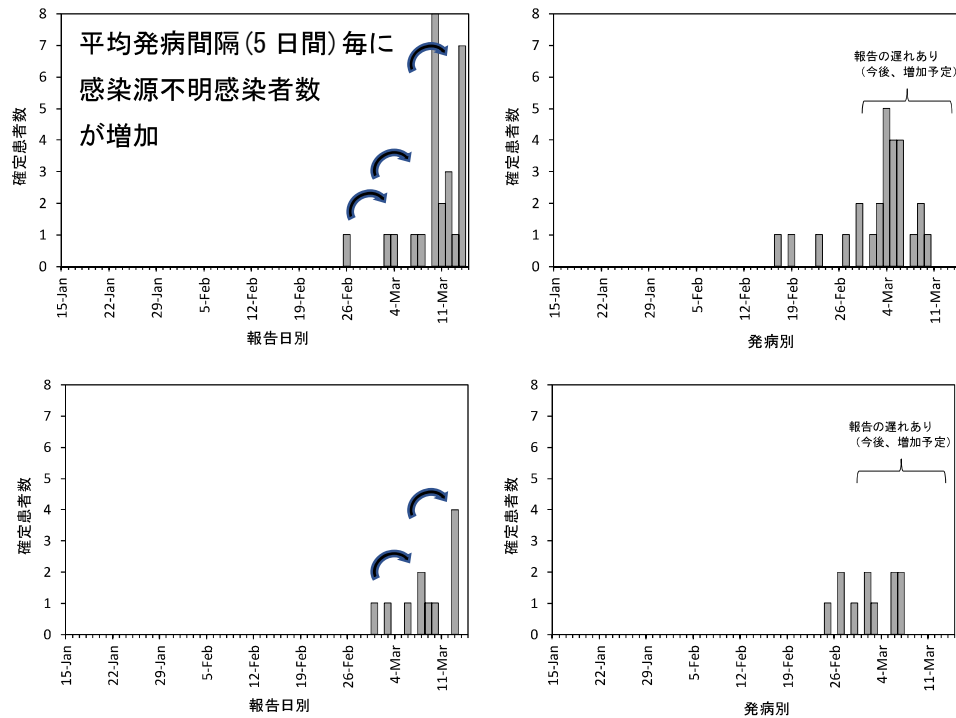
段階2 積極的介入段階

- － 全域の不要不急の外出自粛の要請(緊急事態宣言も考慮)
- － 施設の使用制限(緊急事態宣言も考慮)
- 医療提供体制の確保
 - － 重症者の医療提供体制・医療従事者の感染管理体制を早急に整備する

2020年3月16日

図 感染源不明（リンクなし）症例が感染世代ごとに増加している

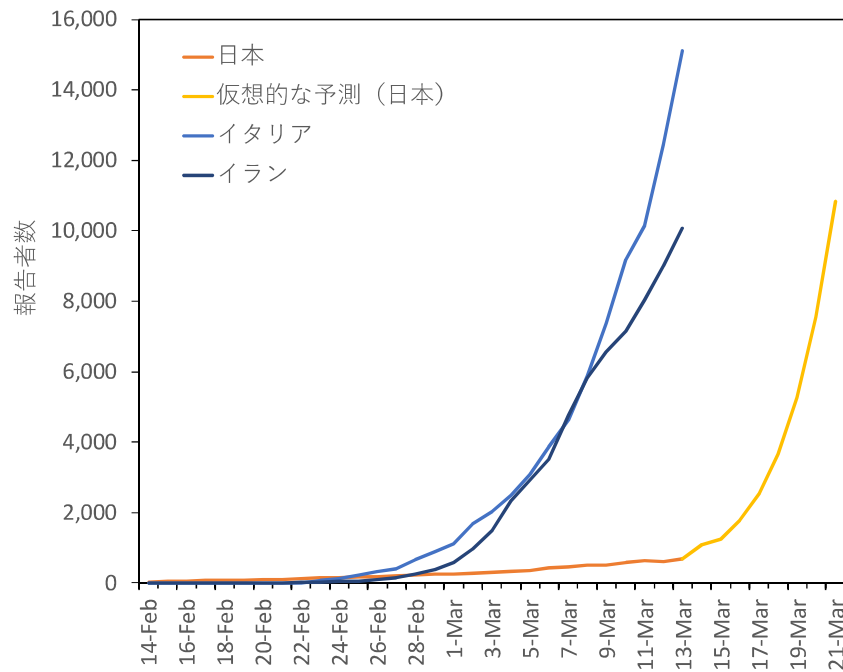
- 新型コロナウイルス感染症の平均発病間隔は4～5日間
- 平均発病間隔程度の日数毎に感染源不明感染者が出現しており、その集積は世代ごとに増加傾向
- コミュニティにおいて見えない感染の拡大が起きている可能性を示唆。
- 1～2世代分放置すると爆発的に感染者数が増加するリスクが上昇



大阪府（上）と兵庫県（下）におけるリンクのない感染者数の推移（左が報告日別、右が発病日別）

図 感染者報告数は急速に増加する

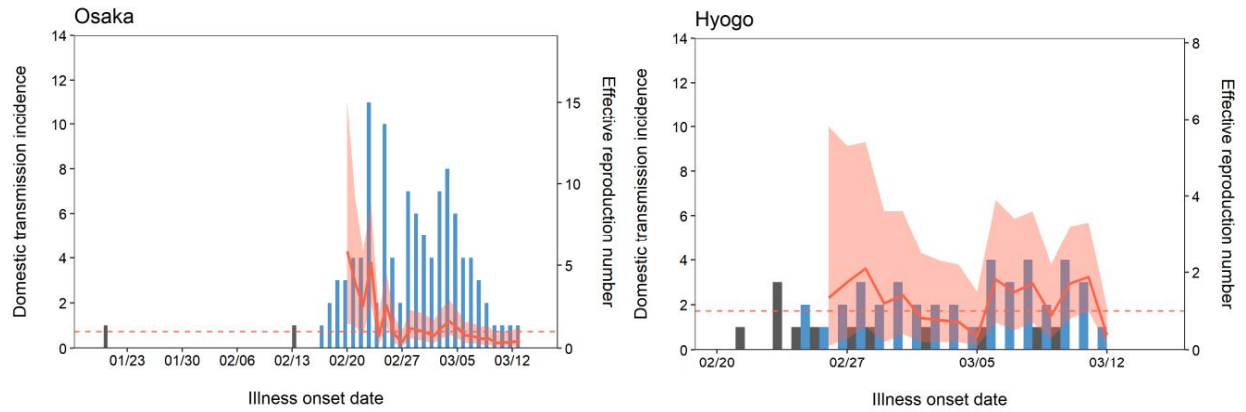
- 欧州などでは、国レベルでの急速な感染者の増加が見られている。
- 1つの地域で集中的に、指数関数的に増加することが特徴。2～3日で新規患者数が倍増
- 急速な増加が始まると、増加を認識してから1週間以内に圏域内の医療体制に莫大な負荷。



日本、イタリアやイランにおける流行と仮想的な予測

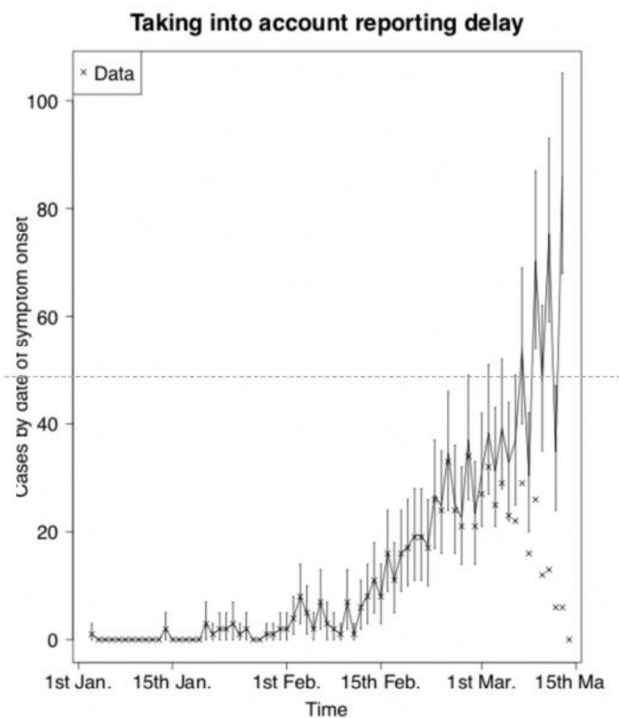
図 兵庫県では実行再生産数が常に 1 を上回る

大阪府では次第に 1 を下回る傾向（左図） 兵庫県では常に 1 を上回っている（右図）



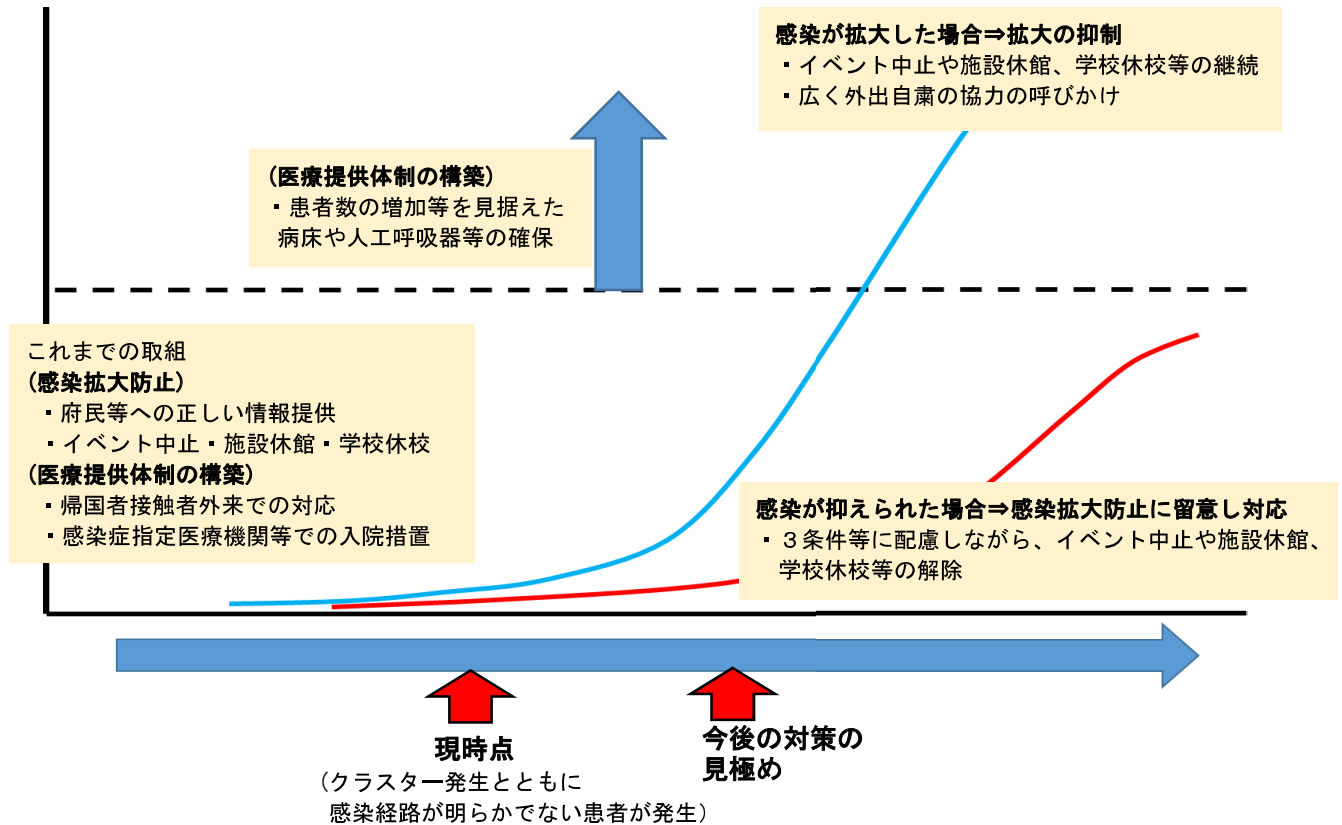
大阪（上）・兵庫（下）における実効再生産数（1 人あたりが生み出す 2 次感染者数の平均値）

図 全国的に安定して指数関数的に増加しつつある

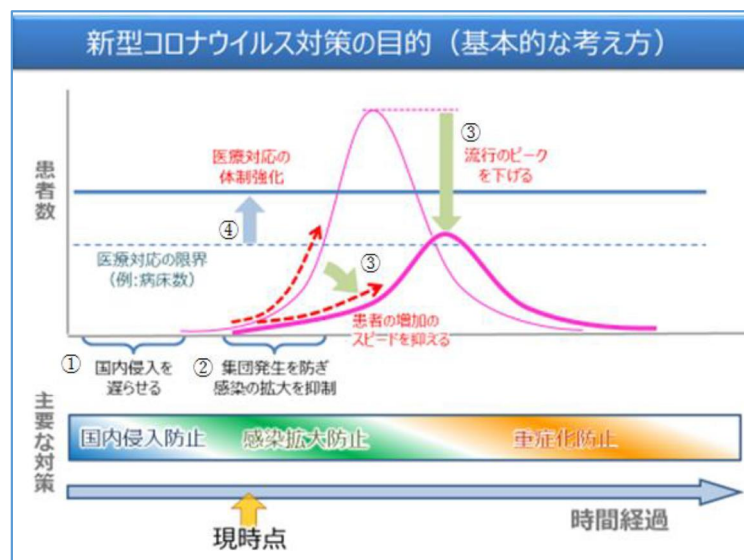


感染拡大防止に向け必要な取組みについて

＜感染の状況に応じた主な取組み＞



(参考: 令和2年2月24日第3回 新型コロナウイルス感染症専門家会議資料)



＜取組みの移行の判断にあたって留意すべき点＞ (カッコ内は府専門家会議委員の意見)

- 陽性者の発生状況
- リンク不明の感染者数の状況(掛屋副座長)や、それに対する有効な対策の判明状況(朝野座長)
- 医療体制(病床数・医療スタッフ・医薬資機材)の確立の状況(朝野座長)
- 様々な指標を用いて専門家により判断すべき(砂川オブザーバー)